

絵の音を聴く

— 雨と風、鳥のさえずり、人の声 —

この夏、根津美術館では、コレクション展「絵の音を聴く―雨と風、鳥のさえずり、人の声―」を開催いたします。

絵を見て、何が描かれているのかを確認するだけでなく、そこにあるべき音を想像するのは楽しいものです。くちばしを大きく開けてさえずる小鳥たちの声、龍虎が巻き起す風や雲の轟音ごうおん、また山水画に表された雨風や瀧の音、そして名所絵の群衆の賑わいにぎわいなど、音を感じとることが出来る絵画作品はじつは少なくないのです。画中の菩薩ぼさつや樂人がくにんたちが奏でる音楽も、見る人によってそれぞれの音で聞こえることでしょうか。かつて、中国の文人たちは、部屋の中にいながら胸中の山水に遊ぶことを「臥遊」と呼び、高尚な遊びとして楽しみました。壁に掛けた山水画の世界に懐いを馳せ、そこに心を自由に遊ばせるという鑑賞法です。心を澄まして絵の中に入り込むことができれば、現代の私たちにもきつとさまざまな音が聞こえてくるはずですよ。

南宋時代・13世紀の重要文化財「風雨山水図」(伝夏珪筆)から、江戸時代・19世紀の「夏秋溪流図屏風」(鈴木其一筆)まで、当館の所蔵品を中心に約25件で構成したこの展覧会に静かに耳を傾け、それぞれの作品の新しい魅力を発見してみてください。でしょうか。

7月30日(木)～9月6日(日)

【休館日】毎週月曜日

夏秋溪流図屏風(部分) 鈴木其一筆 日本・江戸時代 19世紀 根津美術館蔵

根津美術館
NEZUMUSEUM

「絵の音を聴く 一雨の音、風の音、鳥のさえずり、人の声」

重要文化財 どうていせきへきずかん 洞庭赤壁図巻 いけのたいが 池大雅筆 1巻 絹本着色 日本・江戸時代 明和8年(1771) 個人蔵



日本の文人画を大成した池大雅(1723~1776)が、版本の略図をもとに実際には目にしたこともない中国の名勝をみごとに描きあげた名作。画中に入り込んで遊ぶことができれば、満々たる水や、人々の生活の音が聞こえてくる。

なつあきけいりゅうずびょうぶ 夏秋溪流図屏風 すずききいつ 鈴木其一笔 6曲1双 紙本金地着色 日本・江戸時代 19世紀 根津美術館蔵



檜ひのきの林を駆け抜ける谷川のせせらぎや、幹にとまった1匹の蟬の声が聞こえるだろうか。流れる時間の一瞬を切り取り、意識的に音を消し去ったかのようにも見える、不思議な魅力をたたえた作品。江戸琳派の鈴木其一(1796~1858)渾身の作。

りゅうこずびょうぶ 龍虎図屏風 せつそんしゅうけい 雪村周継筆 6曲1双 紙本墨画 日本・室町時代 16世紀 根津美術館蔵



古来、龍うなが唸れば雲がわき、虎ほが吠えれば風が起ころう。戦国時代地方画壇の風雲児と称される雪村周継は、さらに激しく波立つ水を描き加え、轟音ごうおんがとどろく迫力ある画面を構成した。

くすみりかげ 舞楽図屏風 久隅守景筆 6曲1双 紙本着色 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵



向かって右隻に四人舞の太平楽を、左隻に二人舞の納曾利なそりと一人舞の蘭陵王らんりょうおうを、楽人とともに描く。雅びな音楽にも耳を傾けてほしい。久隅守景(生没年不詳)は、狩野探幽かのうたんゆうの高弟。



重要美術品
 傘張り・虚無僧図
 岩佐又兵衛筆
 1幅 紙本着色
 日本・江戸時代
 17世紀
 小林中氏寄贈
 根津美術館蔵

岩佐又兵衛(1578～1650)が描いた押絵貼屏風に貼られていた1図。傘張りの家に門付けをするふたりの虚無僧が奏でる尺八の音が銀泥の霞に乗って、画面を漂っているようだ。

おうみせめいしよずびようぶ
 近江伊勢名所図屏風 6曲1双 紙本金地着色 日本・江戸時代 17～18世紀 根津美術館蔵



向かって右隻に三井寺や石山寺など近江(滋賀県)の、左隻に伊勢神宮や二見が浦など伊勢(三重県)の名所の賑わいを表す。昨年修理が完了し、今回がお披露目の展示となる。



右隻(部分)

同時開催展

展示室5

「しつらえを楽しむ ー福島静子のコレクションー」

実業家・福島静子氏(1900-1996)による女性コレクターらしい、日々の暮らしを彩った優美な調度の数々をご覧ください。



せつげつかまきえすずりばこ うえまつかねよし
 雪月花蒔絵硯箱 植松包美作
 1合 日本・大正時代 20世紀
 根津美術館蔵

黒地に、銀蒔絵で描いた満月の下に咲く、満開の桜を金蒔絵で描いた硯箱。箱の内側には雪花文を配する。シンプルな構図が力強い。



せんめんまきえでぼこ
 扇面蒔絵手箱
 1合 日本・江戸時代 18世紀
 根津美術館蔵

掛け子に硯と水滴をおさめた手箱。全体に、千鳥や牡丹、公達などを描いた11面の扇面を散らした、雅やかな作品である。

展示室6

「清秋を楽しむ茶」

空が清らかに澄みわたる清秋は、実りの季節で、秋雨もまた風物詩のひとつです。この時期にふさわしい茶道具約20件を取合せます。



たまかしわでちやいれ むらさめ
 玉柏手茶入 銘 村雨
 1口 瀬戸 日本・桃山～江戸時代 16～17世紀
 根津美術館蔵

胴の中程がややくびれた筒形は、唐物にない瀬戸独自の形である。秋の俄か雨を意味する銘も和歌に由来し、和物の風情溢れる茶入と言える。



そめつけぶどうえみずさし
 染付葡萄絵水指
 1口 景德鎮窯 中国・明時代 17世紀
 根津美術館蔵

日本向けに中国で生産された古染付と呼ばれるやきもの。器の内側にも葡萄文が描かれたゆしさを溢れる水指である。

関連プログラム

講演会	「絵の音を聴く」 日時 8月22日(土) 午後2時～3時30分 講師 松原 茂(根津美術館 学芸部長) 会場 根津美術館講堂(定員 130名)
(申し込み方法)	往復葉書の往信裏に、展覧会名・住所・氏名(返信面にも・裏は白紙のまま)・電話番号をご記入うえ、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館 講演会係宛にお申込みください。 *8月8日(土)締切(当日消印有効)。 *参加希望者1名1講演会につき、1枚の往復はがきでお申込みください。

スライドレクチャー	日時 7月31日(金)、8月14日(金)「絵の音を聴く」 松原 茂(根津美術館 学芸部長) 8月28日(金)「しつらえを楽しむ」 多比羅 菜美子(根津美術館 学芸員) いずれも午後1時30分から約45分 場所 根津美術館 講堂(先着130名)
-----------	--

※いずれも聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

特別催事

催 事	「茶杓をけずってみよう」 日時 8月1日(土) 第1回:午前10時30分～12時30分 第2回:午後1時30分～3時30分 講師 池田 泰輔氏(竹楽会講師・竹芸家)
-----	--

※料金・申込方法などの詳細はHPまたは電話にてお問い合わせください。

開催概要

【展覧会名】	コレクション展「絵の音を聴く 一雨と風、鳥のさえずり、人の声」
【主 催】	根津美術館
【開催期間】	2015年7月30日(木)～9月6日(日)
【開館時間】	午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
【休 館 日】	毎週月曜日
【入 館 料】	一般1000円(800円) 学生800円(600円) *()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
【前 売 券】	一般900円 学生700円 2015年5月30日(土)～7月20日(月・祝)「江戸のダンディズム」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
【ア ク セ ス】	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
【住 所】	〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
【お問合わせ】	TEL 03-3400-2536 (代表)
【ホームページ】	http://www.nezu-muse.or.jp (日本語・English)
【携帯サイト】	http://www.nezu-muse-app.jp (日本語・English) *携帯サイトは機種により閲覧できない画面があります。
【専用アプリ】	「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

次回展



重要文化財 青井戸茶碗 銘 柴田
朝鮮・朝鮮時代 16世紀 根津美術館蔵



国宝 鶺鴒 伝 李安忠筆
中国・南宋時代 12～13世紀 根津美術館蔵

創立75周年記念特別展

青山の至宝 — 根津嘉一郎と茶 — (仮)

2015年 9月19日(土)～11月3日(火・祝)

コレクションの基礎を築いた初代根津嘉一郎が、その生涯をかけて収集した書画と茶道具の名品で創立記念を祝います。